

東京外国為替市場委員会 第 148 回会合 議事録

開催日時 2012 年 1 月 11 日 13 : 00～14 : 30
場 所 日本銀行本店 新館 9 階中会議室 B
議 長 星野 昭
副 議 長 中野 北斗
副 議 長 梨本 忠彦
書 記 竹内 淳
出席委員 20 名

I. 委員の任期満了・再任について

星野議長より、小田川前委員の後任として、以下の方から委員への立候補届けがあったとの報告があり、立候補者による所信表明、推薦人による推薦を経て委員による投票が行われ、下記候補者は全会一致で新委員に選任されました。

岩田 智宏（ゴールドマン・サックス証券）

II. 小委員会報告

1. 運営小委員会

塚田委員長より、通常の小委員会報告に加えて、Code of Conduct の見直し、取引情報蓄積機関にかかる議論、年次総会における小委員会報告の依頼等が、議題として提案されたとの報告がありました。

2. 市場調査小委員会

筒井準委員より、外国為替取引高サーベイの拡充の対象となった金融機関を訪問するに当たり、東京外為市場委員会としてのレターを正式に作成したとの報告がありました。また、予定通り、拡充の対象となった金融機関を今月中に訪問し、2月から3月にかけて、説明会を開催することが確認されました。

3. BCP 小委員会

星野委員長より、BCP 訓練当日（1/26 日）に備えて、指差し確認が行われたとの報告がありました。

4. 法律問題小委員会

今西委員長より、投資信託協会や日本証券投資顧問業協会に対して、対円 NDF フィキシング・レート算出方法の推奨に関するパブリックコメントの実施について、周知依頼を行ったとの報告がありました。また、フォレックス・クラブを通じた情宣についても、合意されました。これに加えて、星野議長より、パブリックコメントの英語版をホームページに掲載し、海外の投資家にも周知を図る予定であるとの報告がありました。

5. 教育小委員会

前波委員より、次回のフォレックスセミナーには、講師として、シティバンクの高島修氏、UBS の植野大作氏を招聘する予定である旨報告がありました。

III. その他

1. Code of Conduct の見直し

竹内書記より、ニューヨーク外為市場委員会が作成した各国外為市場の Code of Conduct の比較に関する説明があり、本年の取り組みとして、東京外為市場委員会の Code of Conduct のレビューを行ってはどうかとの提案がありました。議論の結果、Code of Conduct 小委員会の場で、国際比較を行いつつ、検討作業に取り組む方針が決定されました。

2. 取引情報蓄積機関

星野議長より、取引情報蓄積機関に関する議論も含めて、為替取引に関する新しい規制の動向に関して、東京外為市場委員会として情報を集め、当局に対して建設的な提案を行う必要があるのではないかとの発言がありました。これに対して、高木委員より、法律問題小委員会、市場調査小委員会、オペレーション小委員会の3委員会合同で、議論の場を作ってはどうかとの提案がありました。オペレーション小委員会、法律問題小委員会から賛意の表明がありましたが、議論の結果、事務局の陣容や具体的活動イメージ等詰めるべき課題が多いため、まずは各行で議論の適任者を選び、森準委員に集約することとなりました。

3. 年次総会における小委員会報告

星野議長より、2/28日に予定されている年次総会に向けて、2月上旬を目処に、各小委員会の活動報告を取り纏めて欲しいとの依頼がありました。

4. 東京外為市場委員会の委員減少

竹内書記より、本年は、金融機関の合併に伴って、委員数が減少するのではないかとの発言がありました。これに対して、今西委員より、住友信託銀行と中央三井信託銀行は、本年4月の合併で委員は一名となるが、人的資源の拡大も見込めるため、取引情報蓄積機関に関する議論への対応も含め、小委員会活動への貢献については、相応の役割・期待に応じていくつもりであるとの発言がありました。

5. BISによるサーベイ（2013年実施予定）

竹内書記より、3年毎に行われている「外国為替およびデリバティブに関する中央銀行サーベイ」に関して、BISの事務局から、統計拡充の提案がなされているとの報告がありました。金融機関の負担感等を調査すべく、提案内容の詳細については、BISの事務局に諮ったうえで、竹内書記から市場調査小委員会に報告することになりました。

6. 年末年始の為替マーケット開始時刻

各委員より、年末年始（豪州休場日＜12/26日、1/2日＞）における外国為替取扱開始時間の実際の運用状況に関して、説明がありました。議論の結果、市場流動性が極端に低下した状況では、市場価格のマニピレーションに対する懸念があるため、こうした状況下で付いた市場価格をオプションの判定価格として採用することの是非について、ISDAに意見を求めることになりました。また、年末年始の外国為替取扱開始時間については、本年のグローバルFX委員会（春先にフランクフルトで開催予定）の場でも、議論することが望ましいとの認識が共有されました。

以 上

(別紙)

東京外国為替市場委員会委員名簿 (1月11日現在)

<委員>

議長	○星野 昭	(三菱東京 UFJ 銀行)
副議長・市場調査小委員長	○中野 北斗	(みずほコーポレート銀行)
副議長	○梨本 忠彦	(パークレイズ銀行)
書記	○竹内 淳	(日本銀行)
運営小委員長	○塚田 常雅	(三菱 UFJ 信託銀行)
広報小委員長	○大木 一寛	(EBS デイリングリソースジャパン)
教育／Code of Conduct 小委員長	好川 弘一	(クレディスイス証券)
法律問題小委員長	○今西 晋嗣	(住友信託銀行)
オペレーション小委員長	○福島 亮一	(みずほ銀行)
E コマース小委員長	○高木 晴久	(三井住友銀行)
NDF 慣行整備小委員長	○廣田 泰司	(JP モルガン・チェース銀行)
	北倉 克憲	(中央三井信託銀行)
	○宗川 雄視	(ロイター・ジャパン)
	○石川 昌信	(トキョウフォックス上田ハーロー)
	○大西 知生	(ドイツ証券)
	○前波 弘	(野村証券)
	○岩田 智宏	(ゴールドマン・サックス証券)

<準委員>

○伊藤 祐介	(マネー・ブローカーズ・アソシエーション)
○筒井 慎一	(みずほコーポレート銀行)
○森 直樹	(三菱東京 UFJ 銀行)
○井出 穰治	(日本銀行)

<オブザーバー>

○木原 大策	(財務省)
--------	-------

(注) 敬称略 (順不同)。○は今回出席。